

グループ〈わ〉も支援チーム派遣

カレッジOBら、東北被災地で活躍

東日本大震災から4か月。グループ〈わ〉は7月中旬、宮城県下へ支援チームを派遣します。日用品・衣類・農機具などの物資を持参するとともに、現地では田んぼの修復作業や子供たちとの交流を予定しています。サークルなどの協力で進めている物資購入募金は100万円を突破しました。救援物資の提供もお願いしており、順次、現地へ届ける予定です。一方、K S Cの卒業生・現役の動きも活発になり、現地へ駆けつけボランティア活動をするグループや個人が増えています。（取材 広報・南形徹）

7月中旬、17人で宮城県下へ

東北支援チームは7月18日（火）～22日（金）の5日間、宮城県大崎市にある「NPO法人田んぼ」（岩淵成紀代表）を拠点に、南三陸町・大崎市・登米市周辺で田んぼの修復作業や子供たちとの交歓会をする予定です。メンバーはK S Cの現役・OB17人で、乗用車4台に分乗。募金で購入した日用品・雑貨・農機具などを持参します。

現地の子供たちと息の長い交流をしようと、グループ〈わ〉が4月から拠点探しを進め、保田茂講師（生環コース）の紹介で「田んぼ」と連携することになったものです。「田んぼ」は自治体の目が届きにくい農村地域を中心にボランティア活動をしている団体で、3月にはK S Cの卒業生ら5人が手伝いに行っています。

〈わ〉では今回の支援活動が成功すれば、秋以降も支援チームを派遣、現地との交流を継続する予定です。

参加メンバーは自由参加8人、昔遊び・一寸奉仕から5人、本部4人の計17人（うち女性は4人）。田んぼグループ（9人）と交流グループに分かれ活動します。支援物資は、「田んぼ」から要望のあった物品を中心に購入。医薬品・日用品・野菜の種子はすでに2回にわたって託送しています。鋤・鎌・スコップなどの農機具類と、カレッジの皆さんからの提供物資ダンボール30箱分は、派遣チームが持参する予定です。

【第1次派遣チーム】▽1班＝道満俊徳（団長・生13）内村ナナ子（国18）平林啓子（音18）水島和信（生12）清野清・小澤輝彦（生13）片岡隆夫（国17）海野龍英（食18）芦田義和（会計・生15）▽2班＝渡邊佳視（総務・生12）大沢貞男（生13）・内田たみ子（福10）増金スミ子（福11）古後健一（福18）飯川泰郎（国12）黒本茂弘（食13）南形徹（広報・生14）

募金は100万円を突破

〈わ〉が3月から始めた救援募金は6月30日で100万円を突破しました。約50万円は振興協会を通じて神戸市へ預託、50万円は要望のあった物資を購入して派遣チームが現地へ届けます。（募金・物資の協力者は5面に）



宮城遠征の5人。左端が鍋島さん。右端はNPO田んぼの岩淵さん

食農塾5人、田んぼを修復

カレッジ卒業生でつくる「ひょうご食農塾」のメンバーら5人は5月6～8日、宮城県大崎市、登米市、気仙沼市を訪れて救援物資を届け、大津波で荒らされた田んぼの修復作業を手伝ってきました。「強行軍だったけど、少しは役にたてたかなあ」。鍋島隆さん（生10）は満足そうな表情で宮城遠征を振り返ってくれました。あとの4人は、高月啓子（生7）、嶋谷徹（同）、堅田サチエ（同）、西尾津子（生18）の皆さんです。

一行は自前で購入した日用品・食料・食器・医薬品・文具・玩具・絵本・衣類など1500点近い物資を車3台に満載して6日朝、神戸を出発。片道1000キロの道のりを24時間かけてひた走り（途中で仮眠）、7日朝、大崎市にある「NPO法人田んぼ」（岩淵成紀代表）に到着しました。「田んぼ」は生環コース講師・保田茂氏の紹介で知ったものです。ここは内陸部で津波の被害はないため、物資はもう少し海よりにある登米市の支援物資 配送センターに寄託。

その足で、被害が大きかった気仙沼市に向かい、大谷中学校の学校田で瓦礫の破片を取り除く作業をしました。塩害の除去は終わっているが、瓦礫の破片（特にガラス）が無数にあり、裸足で田植えをする子供たちが危険だからです。その夜は車の中で1泊。8日早朝に現地を発って戻ってきました。「秋にはもう一度現地を訪れ、あの田んぼの収穫ぶりを見たい」とそうです。